令和5年度のスタートに当たって

校長 増田 好範

令和2年3月に始まったこの3年間は、新型コロナウイルス感染症拡大に伴う緊急事態宣言やまん延防止措置、さらに感染が子供たちに拡大したことによる臨時休校、登校とリモート学習の選択を余儀なくされるなど、これまでの学校教育では経験のなかった対応を求められた日々でした。その中で、新しい学校の生活様式を維持しながら生活することや3密を避けた学習活動の展開、さらには国のGIGAスクール構想を前倒しした一人1台タブレットの配置・活用など、時代に応じた新たな学校の在り方が求められてきました。最も影響を受けたのは、児童が楽しみにしている3密が必然な学校行事や校外学習でした。いずれも児童の成長には欠かせないものであり、先行きが見通せない不安定な社会状況の中で、その都度実施方法を検討するとともに、ICT環境を活用して、「集合しなくても一体感がもてる、直接経験しなくても別の方法で実感できる教育活動」の充実を図ってきました。

そして、長かったトンネルの出口が見えてきた今年の卒業式は……。令和2年3月は校庭で6年生だけの卒業式、令和3・4年3月は体育館で6年生だけの卒業式から、やっと5・6年生がお互いの思いを語り伝え合う「門出の言葉」が復活した卒業式になりました。卒業生が6年間の学校生活を振り返り、「思い出・感謝・5年生へのバトンタッチ・将来への希望」を語り、その様子を真剣な眼差しで見つめる5年生がそれに答える、感動に満ちた時間でした。わずか1時間の式ですが、卒業生も在校生代表の5年生も、さらに一段階成長した凛々しい姿を見た瞬間でした。

令和5年度は、新型コロナウイルス感染症が第5類感染症に変更されるのに伴い、これまで制限されてきた教育活動をできる限り従前の形に戻すことができるように努めます。その際、コロナ禍でやり方を変えたもの、コロナ禍とは関係なくやり方を変えたものを区別して今年度の実施方法を検討するとともに、例えば運動会など、コロナ禍で工夫したやり方が今後の在り方としてより望ましいと考えられるものは、新たな実施方法として確立することを目指していきます。

本年度の学校経営では、昨年度の保護者アンケート等をはじめとする学校評価の結果に基づき、児童の心の安定があってこそ一人一人の可能性を引き出し、力を伸ばすことができると考え、「はじめに子供ありき～受容的・共感的に理解し、自主性・主体性・自律性を尊重するカウンセリングマインドの発揮で児童の力を伸ばす学校づくり～」を重点テーマに、児童も教師も互いに成長を実感できる学校づくりを実現していくように努めてまいります。

重点テーマの実現のために、次の6つの取組を推進します。

- ① 一人一人の児童には、個性や能力、それぞれの考え方・感じ方・理解の仕方に違いがあることを認識するとともに、それぞれの違いを大切に最大限に成長を促すことができるように努める。そのために、カウンセリングマインドの発揮を意識する。
- ② 主体的な活動を通して、自分の考え方や行動、ものの見方や感じ方を深めさせ、児童自身が成長を実感できるよう、指導方法や声かけの工夫に努める。
- ③ 一人一人の教師が「分かりやすい授業・楽しい授業」の実践を目指して各自の課題把握と改善で指導力を磨くとともに、タブレット端末やAIドリルの活用など時代が求める教育の研鑽に努める。
- ④ 「伝える熱意・伝わる誠意」を常に心がけて、児童・保護者・地域から信頼される愛情ある指導の実践に努める。
- ⑤ 児童を学級の児童のみならず、学年の児童、学校の児童として捉えて、全教職員が共通行動で指導に当たるよう努める。
- ⑥ コロナ禍対応の教育活動から、平時の教育活動への復旧を適時・適切に図る。

令和5年度が、千寿本町小学校の児童にとって更なる飛躍の年であるよう、引き続き、保護者・地域の皆様のご協力のもと、職員一同力を尽くしてまいります。本年度も、どうぞよろしくお願いたします。